

実践記録

123

シリーズ

生涯学習コーディネーター養成講習

長岡市 生涯学習文化課 主事 鈴木 綾

1、はじめに

長岡市では、「いつでも、どこでも、だれでも学べるまち」の実現に向けて、市民と行政との協働による、市民が主役となった生涯学習社会の実現を目指している。

その中で、時代に先駆け、市民協働を体現しているのが、平成13年度から始まった生涯学習コーディネーター養成講習である。生涯学習コーディネーターとは、市からの委嘱を受け、自らの経験や特性を生かしながら、市民の自主的な学習の支援を担う市民ボランティアである。

その業務は「生涯学習相談室」での学習相談や、市民講師による自主的な講座の支援など多岐にわたる。昨年度、第4期養成講習を開講し、10名が受講することとなった。

2、内容

養成講習の内容については、別表のとおりである。

7月から月に1回、「通信教育研修」と「独自研修」とによる養成講習が始まった。「通信教育研修」では、文部科学省認定社会通信教育の「生涯学習指導者養成講座」を活用しながら、社会教育指導員が講義を行った。通信教育を集団で学ぶことによって、受講者が互いの成長を認め合いながら、基礎的な知識を身に付けることができた。

「独自研修」では、長岡市生涯学習推進計画や生涯学習関連事業などについての講義を行った。市民

活動の発表・鑑賞の場となっている市民センターの見学や、15名の先輩コーディネーターと語り合う機会を設定した。受講者は、今まで書類上でしか学ぶことのなかった生涯学習の現場を目の当たりにすることができたようだ。

締めくくりの3ヶ月は、窓口や電話対応、相談事例など、生涯学習相談室に勤務する際に必要な「学習相談研修」や「実践研修」を行った。

「実践研修」では、まちづくり事業を手がけた経験もある、「編集工房わらく」主宰の和田一良さんを招き、新たな学習プログラムを実際に組み立てた。また、養成講習最終日には、桜美林大学の瀬沼克彰教授を招いて講演会を開催し、受講者がこれから活動していくにあたっての心構えや注意点・励ましの言葉をいただいた。これらの研修をとおり、受講者からは、「コーディネーターとは人と人をつなぐ架け橋だと感じた」「相談者に誠意を持って対応していきたい」などという意見が寄せられた。養成講習を修了した10名は、4月から新たなコーディネーターとして活動することとなった。

3、終わりに

今回の養成講習では、座学だけでなく、実務体験を多くしたことで、修了生はコーディネーター業務にスムーズに入ることができたようだ。養成講習修了後も、コーディネーターの資質向上のため、講師招聘等による研修を行っていく予定である。

平成19年度生涯学習コーディネーター養成講習内容

回	期日・時間	テ ー マ	
1	6/22 (金)	開講式	
2		【独自研修】	
	7/20 (金)	第二次生涯学習推進計画 (後期計画) について	
	8/17 (金)	生涯学習・社会教育の現状について	
	9/21 (金)	生涯学習相談室の活動について	
	10/19 (金)	生涯学習人材バンク「まちの先生」制度について	
	11/9 (金)	市民センターのこれまでの歩みについて	
	12/14 (金)	先輩コーディネーターと夢を語る	
3		【学習相談研修】	【実践研修】
	1/18 (金)	相談対応 (窓口編)	学習プログラムの企画
	2/22 (金)	相談対応 (電話編)	学習プログラムの発表及び講評
	3/14 (金)	相談事例	講演「生涯学習ボランティアで人とまちを元気に！」



1日体験相談室

※「通信教育研修」の内容は省略。

※その他、1日体験相談室の実施や、修了時にレポート提出の課題あり。